

自然と共生する「養蜂事業」を通し、 地域社会に活力を生み出す

札幌大学のキャンパスには、「札幌大学の森」と呼ばれる、約3万平方メートルもの自然林があります。この緑豊かなキャンパスと、大学がある西岡の自然の恵みを生かし、本学とNPO法人札幌大学スポーツ・文化総合型クラブ「めえ〜ず」が協働して、養蜂事業を展開しています。

本学の養蜂事業におけるミツバチの数は8万〜9万匹です。札幌大学の森から羊ヶ丘展望台までを活動範囲としており、6月〜9月の活動期間中に、サクラやリンゴ、アカシア、クローバーなどの季節の樹木や花々から蜜を採取しています。採取の時期によりそれぞれ味が違うため、折々に楽しむことができ、その濃厚で風味豊かな甘みが人気となっています。



生き物を扱うという特殊な事業だけに、



専門家の指導・サポートのもとに作業。シーズン中は毎日巣箱の状態を確認し、天候の変化がミツバチに及ぼす影響など、細かくチェックしていきます。採蜜にこぎつけるまでは、自然を相手にする難しさを痛感することばかりですが、地域の方々に手に取っていただいたときの笑顔は何ものにも変えられません。スタッフ一同、大きなやりがいを持ち、日々の作業に勤しんでいます。

事業開始より3年目を迎える2015年は、この養蜂事業を通して、地域の方々と本学学生が交流を図れるような取り組みを推進します。札幌大学の養蜂事業のこれからの発展にご期待ください。

蔵書数4万点。
元学長、山口名誉教授の書籍を収蔵した、
地域の図書館

山口文庫

札幌大学の元学長、山口昌男名誉教授は、日本を代表する文化人類学者として国際的にも高く評価され、本学だけでなく、北海道における文化学の発展に大きく寄与されました。生前は文化人類学の枠を越え、演劇、文学、映画、音楽、美術、漫画など、さまざまなジャンルに精通し、まさに「知の標識」と讃えられるご活躍でした。本学には、その山口名誉教授が長年にわたって集められた珍しい書籍、約4万点を収蔵した「山口文庫」があります。



追悼特別展には、石塚純一元図書館長も東京から駆けつけ、案内人を務められました。

書籍のほかに、お面やおもちゃといった民族資料も展示しており、一般の方も閲覧可能となっています。2014年には追悼特別展も開催され、多くの入場者で賑わいました。現在も知的好奇心旺盛な学生はもちろん、周辺住民の方々にも多数利用され、「地域の図書館」として親しまれています。

山口 昌男(1931~2013)

北海道美幌町出身。文化人類学者。2011年度文化功労者。